

## 2 生涯学習の充実

基本方針	<p>家庭や地域での子どもの体験教室やキャリア学習、生活を豊かにする社会教育活動を通じて、市民が趣味やスポーツなどに親しみ、様々な問題解決や自己の希望の実現に向け、いきいきと学ぶことのできる「市民一人ひとりが輝く生涯学習のまちづくり」を進めます。</p> <p>また、市民が自主的に主体的に参加し、お互い尊重し合い、教え合い、学び合う生涯学習活動の充実を図ります。</p> <p>さらに、市内に関係施設がある大学との連携により、大学の持つ知的財産を市民に還元し、学習機会の拡充を図るとともに、若者の地域離れが進むなか、市民が各地域の自然や歴史、文化などを活かし、地域学習などを通じて、お互いに交流し、活動する魅力あるコミュニティづくりを推進します。</p>
------	--

### ○多彩な学習活動の促進

事業等名	公民館事業の充実				
概要	<p>魅力ある公民館教室の開催や、サークル・クラブ活動の育成を行い、高齢化の進行等に伴う新たなニーズにも対応した公民館事業の充実を図ります。</p> <p>また、公民館の管理のあり方等を検討し、利便性の向上に努めます。</p>				
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>魅力ある公民館教室とするために、趣味・教養・健康等の講座や、ハイキング・高齢者学級・家庭教育学級など多分野にわたって実施しています。また、参加者が地域の限定なく、どの公民館の講座にも申し込みができるように配慮しています。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>主催事業</td> <td>79 講座</td> </tr> <tr> <td>定期登録団体</td> <td>196 団体</td> </tr> </table> <p><b>【成果と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎参加者が希望する講座に参加できるように、その都度受講者を募ることで、新規の参加者も増えています。</li> <li>◎定期登録団体には、社会教育団体であることを意識づけるための団体長会議を行うことで、活動におけるモラルの向上と活動についての共通理解を図っています。</li> <li>◎年度当初に公民館の運営基本方針と重点目標を定め、それに基づいて主催事業を企画するなど、新たな事業の掘り起こしも図りました。</li> <li>◎サークル参加者の減少や高齢化により、活動の継続が困難なケースも見られることから、新規加入者の促進及び利用者の若返りを図るため、初歩の講座を開催することで既存のサークルに参加しやすくし、すそ野を広げる取り組みを行いました。</li> <li>◎全公民館の定期利用団体一覧表をホームページ等で公開し、新規利用者の拡大を図りました。</li> <li>◆自分達で運営し、自分たちで学習する必要性を認識し、継続したサークル活動が定着してきてはいるものの、まだ講師頼みの団体も多少見られるため、継続して支援する必要があります。</li> </ul>	主催事業	79 講座	定期登録団体	196 団体
主催事業	79 講座				
定期登録団体	196 団体				

事業等名	地域学習・ボランティア活動の支援
概要	<p>文化施設ボランティアの活用及び育成と生涯学習ボランティア（体験活動支援）の募集を図るとともに、人材バンクとして整備し、地域学習等を支援します。</p>
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>市民に広く親しまれる施設づくりを目指し、平成 21 年度から文化施設ボランティアを郷土資料館及び市立図書館に導入しています。各施設の主催事業はもとより、館内整理や展示案内等のボランティア活動をしています。また、各施設での研修や講習会参加などによりボランティアのスキルアップを図っています。</p> <p>また、平成 23 年度から生涯学習人材バンクの整備に取り組み、平成 24 年度からボランティア登録を募りました。市民団体の学習活動支援を推進し、市民が『いつでも、どこでも、だれでも』学べる学習環境づくりと、市民同士が共に学びあう『人と人とのつながり』を培うことに努めています。</p> <p><b>【成果と課題】</b></p> <p>◎平成 27 年度の文化施設ボランティアは 46 名の登録があり、その数は若干の増加はあるものの、更新登録者も多くなり登録者数は安定しています。このことから、各施設ともに活動内容が広がり、自主事業の多様化や、来館者数の増加など、施設の活性化につながっています。</p> <p>◎生涯学習人材バンクのボランティアは現在 20 名の登録があり、市内の小・中学校のクラブ活動や土曜スクール、通学合宿などで、学習指導や支援を行う活動が広まりつつあり、そのリクエスト数も増えてきています。また、今年度は社会福祉団体とのつながりも生まれ、高齢者への学習支援も実現し、活用の領域が広がってきています。</p> <p>◆文化施設ボランティアは、各施設のボランティア活用計画に基づき活動しています。登録期間が 1 年登録（更新）であることから、登録しやすい反面、登録人数の大幅な増加につながらない面があります。そこで、ボランティア登録者が充実感を味わえ、積極的に活動へ参加できるような取り組みを図っていく必要があります。</p> <p>◆生涯学習人材バンク事業は、4 年を経過し登録ボランティア数も少しずつ増えてはいるものの、より広範囲かつ定期的な募集の呼びかけと、登録ボランティアの具体的な指導内容資料の作成など、当該人材バンクの募集と活用に係る周知を図る必要があります。</p>

事業等名	児童・生徒の体験活動事業の推進
概要	<p>体験活動をする社会教育関係団体の支援、職場体験学習や小学生通学合宿事業など、様々な体験活動と交流学习機会の充実を図り、子どもの生きる力を育みます。</p>
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>放課後子ども教室事業では、「西条土曜スクール」「田原土曜スクール」「江見土曜スクール」「曾呂わくわくサンデースクール」「天津小湊土曜スクール」と、新たに「長狭土曜スクール」が活動を始めました。</p> <p>また、キャリア教育の一環として、78の事業所の協力を得て、市内の中学2年生全員を対象に、「職場体験学習」を実施し、将来の仕事について学習・体験する機会としています。</p> <p>小学生通学合宿事業は、青少年研修センターで寝食を共にしながら学校に通うといった集団生活を体験することで、自立性や協調性を高め、家庭の大切さや保護者のありがたさを理解し、他の学校の友達との交流を深めることを目的として開催しています。</p> <p><b>【成果と課題】</b></p> <p>◎土曜スクールを通して、地域の方が、積極的に子どもたちの為に協力してくださる体制が整ってきました。子どもたちも地域の方と関わる中で、自然や地域を愛する気持ちや体験活動に積極的に参加する姿勢が生まれてきています。今年度は191人の子どもたちが参加をしています。</p> <p>◎学校と地域が連携し、子どもたちが職場体験やボランティア活動に充実して取り組めるよう推進しています。</p> <p>◎家庭を離れて自分たちで生活する通学合宿を通して、自立心や協調性を養うことにつながっています。第1回・第2回合わせて34人の子どもたちが参加しました。</p> <p>◆土曜スクールでは、未実施の小学校区での開校を働きかけ、市内全小学校区での実施を目指します。また、スタッフとなる地域ボランティアの人材確保を進め、各スクールの連携がスムーズに図れるような体制づくりを構築する必要があります。</p> <p>◆職場体験学習では、学校と事業所との実施希望時期の調整と、受け入れが可能な事業所の確保と新たな受け入れ可能な事業所の開拓について改善を図っていく予定です。</p> <p>◆通学合宿事業実施にあたっては、開催時期を市主催の行事や学校行事に配慮していく必要があります。また、健康面に関しては、学校教育活動に支障をきたさないように、睡眠時間の確保等、児童の健康管理に充分配慮していく必要があります。</p>

事業等名	家庭教育の支援
概要	<p>「家庭はすべての教育の出発点、保護者は子どもにとって最初の教育者」であることから、家庭教育を重点施策に位置づけ、家庭教育学級の開催、家庭教育指導員による家庭教育指導や相談事業の実施、また子育て学習会への支援を推進し、家庭の教育力の強化を図ります。</p>
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>家庭教育学級は、社会教育指導員が公民館と幼稚園との連携をとり、平成 27 年度中に市内全幼稚園 8 園でのべ 16 回開催されました。また、全地区を対象とした家庭教育講演会を実施し、参加者からは講師の話がわかりやすいと好評でした。</p> <p>家庭教育相談室は、毎週水・木・金曜日に天津小湊公民館内の相談室で委嘱された 2 名の家庭教育指導員が対応しています。様々な家庭教育の問題に関して、電話相談や面接相談等を受けています。平成 27 年度相談件数は、のべ 111 件でした。また、「母の和だより」を毎月発行し、各保育園・幼稚園・小学校、・中学校・学童保育などの関係者に配布しています。</p> <p>子育て学習会は平成 27 年度中に 4 つの会で開催され、のべ 45 回でした。</p> <p><b>【成果と課題】</b></p> <p>◎家庭教育相談室の件数は、子ども支援課や福祉総合相談センターの複数開設など多様な相談窓口の増加から、横ばい傾向ではありますが、幅広い年代や多様な問題の相談があることから、相談窓口の選択肢が多く容易に相談できる環境をこれからも維持することが重要であり、またその対応の質を高めていきます。</p> <p>◎家庭教育学級は、幼稚園保護者会に公民館長さらに社会教育指導員も相談に加わり、ニーズに応じた体験型の親子交流活動や保護者の語り合い・交流活動が多く実施されました。また、事前アンケートをもとに開催内容を検討したり、質問を集めて講師に講話をお願いしたり、保護者側の組織の参加型の活動がみられました。</p> <p>◎家庭教育学級の取り組みを他の年代層にも広げていく一方策として、オーシャンズ若潮明社と共催して家庭教育講演会を開催しました。今年度は、子どもの保護者、家族、子どもを取り巻く地域の方々、教育関係者などの参加が多数ありました。</p> <p>講師が親業訓練インストラクターの指導者で、お話が具体的で分かりやすかったととても好評でした。</p> <p>◆家庭教育学級を全地区で継続的に開催するために、社会教育の専門職員が公民館長と連携をとり、家庭教育学級を開催する幼稚園の役員会に参加するなど、今後も企画の段階から関わり、助言できる体制をさらに整えていく必要があります。</p> <p>◆江見地区と天津小湊地区の幼稚園には家庭教育に係る保護者組織はありませんが、江見地区は統合により保護者数も増えるので、組織作りを進める必要があります。天津小湊地区も幼稚園を中心に実施しておりますが、積極的な参加を促すためにも他の地区のように組織的な開催を進める必要があります。</p>

## ○青少年の健全育成

事業等名	啓発活動の促進
概要	<p>青少年問題に対する様々な取り組みや方策を探り、地域住民の意識を高め、青少年健全育成の推進を図ります。また、青少年健全育成に関する様々な課題に関する講話や啓発活動を行います。</p>
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>平成27年11月29日に青少年健全育成推進大会及び青少年育成指導者研修会を開催しました。青少年健全育成推進大会では、小中高等学校、一般から募集した青少年健全育成に関する標語の表彰や作文の発表等を行いました。</p> <p>青少年育成指導者研修会では、青少年育成鴨川市民会議をはじめ、育成会・青少年相談員・PTAなど、青少年健全育成に携わる者を対象に、市原市教育委員会前教育長の白鳥秀幸氏を講師に招き、「学校改革への挑戦～学校・家庭・地域の連携の必要性～」と題して講演会を実施しました。</p> <p><b>【成果と課題】</b></p> <p>◎青少年健全育成に関する標語や作文の募集をすることにより、青少年を取り巻く様々な問題について、家庭で考える機会が増えたとの声をいただいています。</p> <p>◎青少年育成指導者研修会を開催することにより、地域住民の意識の向上や青少年健全育成の推進に繋がっています。</p> <p>◆青少年健全育成推進大会と青少年育成指導者研修会は、それぞれ別の日に開催するなどの工夫をし、より一層、参加者の増加を目指します。</p> <p>◆今後は、青少年育成指導者等を対象とするばかりでなく、土曜スクール等の保護者を対象にする啓発活動等を実施するなど、より多くの関係者を対象とした取り組みを検討する必要があります。</p>

事業等名	青少年育成団体活動の活性化及び地域との連携強化
概要	<p>青少年育成団体や学校・警察署などの組織や団体、地域住民と連携しながら、非行防止パトロール等を実施し、地域が一体となった青少年の健全育成に努めます。</p> <p>また、青少年育成団体などの指導者の交流・連携を強化しながら、球技大会やウォークラリー大会、ジュニアリーダー講習会など、多彩な青少年活動の展開を促進します。</p>
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年育成鴨川市民会議が学校や警察等との連携により、非行防止パトロールを実施しました。また、青少年相談員による夏季パトロール等も実施しました。</li> </ul> <p><b>【非行防止パトロール年6回、青少年相談員夏季パトロール12日間実施】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年育成団体などの指導者の交流や連携を図ることを目的に、各種大会を開催しました。<b>【ジュニアリーダー講習会 7/19（日）～7/20（祝・月）・市子連球技大会 10/18（日）・市子連ウォークラリー大会 3/6（日）】</b></li> </ul> <p><b>【成果と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎非行防止パトロールは、青少年育成鴨川市民市民会議と警察署等との関係団体が連携を密にして実施しているため、非行の抑止効果は高まっています。</li> <li>◆非行防止パトロールは継続して実施する必要があるため、今後も青少年育成鴨川市民会議を中心に警察及び関係団体との連携により、実施回数を増加するなどの検討が必要になります。</li> </ul>

## ○市民文化の振興

事業等名	大学等との連携による特色ある生涯学習プログラムの充実
概要	市内に立地する大学関連教育研究施設と連携し、講演会や実験教室などを行います。
実施状況・ 成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>大学関連教育研究施設と連携し、平成4年から城西国際大学の「公開講座」、平成9年からは早稲田大学による「講演会」、また、平成10年から「おもしろ科学実験教室」など、さまざまな事業が開催されております。</p> <p>平成27年度は、城西国際大学による「公開講座」において『健康体で健全な心』をテーマに全2回の講義を実施、また、早稲田大学交流事業の「講演会」では、『火山の息吹を知る』をテーマに、火山活動のメカニズム等について講演をいただきました。さらに、夏休みの一大イベントとなった「おもしろ科学実験教室」では、募集定員180名を大きく上回る288名の応募がありました。</p> <p>また、東洋大学交流事業「講演会」では『認知症について』をテーマに、認知症の早期発見の方法やケアの仕方についてわかりやすく説明していただきました。</p> <p>その他、市民が直接キャンパスを訪れ、大学が有する歴史・文化資産を見学する「東京大学キャンパスツアー」や、自然体験学習を目的とした東京大学千葉演習林での「野鳥の巣箱をかけよう!」、さらには千葉大学海洋バイオシステム研究センターでの「磯の生き物観察会」など多彩な事業を実施し、多くの市民が参加しました。</p> <p><b>【成果と課題】</b></p> <p>◎大学の持つ知的資産や文化的資産を、本市をはじめ周辺地域に積極的に還元することにより、市民が大学を身近に感じ、大学への理解が深められています。</p> <p>◎各大学が市民と交流を深めるとともに、市民文化の向上、生涯学習の充実に役立っています。</p> <p>◆講演会等において、より多くの市民が関心を持ち参加を促すような、市民のニーズに合わせた演題を選定する必要があります。</p> <p>◆各事業がマンネリ化しないよう注意しつつ、内容を見直しながら事業を実施する必要があります。</p>

事業等名	生涯学習施設の整備
概要	施設の不具合箇所の状況に応じ、計画的に改修、修繕を行います。
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b>          公民館をはじめとする各生涯学習施設は、経年劣化等により不具合箇所が増えているのが現状です。不具合箇所の確認をし、利用者の安全性を配慮しながら、予算の範囲内で改修・修繕を行ってきました。特に平成 27 年度は、吉尾公民館の外階段への手摺の設置や、田原公民館 2 階講堂の床の貼り替え等をするとともに、利用者が安心して使用できるよう、主基公民館の耐震診断を実施、また、平成 24 年度に耐震診断を行った中央公民館において、一部指標値が不足していたため、耐震補強工事を行いました。また、視聴覚センター（ふるさとシアター）の屋根の防水改修工事を実施しました。</p> <p><b>【成果と課題】</b>          ◎耐震診断や耐震補強工事など、利用者の安全性を考慮した整備を行いました。          ◎利用者に不便をきたしている箇所については、緊急性を考慮し優先順位をつけて修理を進めてきました。          ◆今後も予算の範囲で、利用者の安全性を考慮しながら修繕していくことが必要です。</p>

事業等名	読書・学習環境の充実
概要	多様な取り組みを推進するとともに、遠隔地利用者の利便性向上のため、公民館等社会教育施設との連携強化を図り、読書人口の増加に努めます。
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b>          遠隔地域の住民サービスのため大山、曾呂、江見、天津小湊の 4 公民館に図書館分室を設置しています。新刊図書やベストセラー本、さらに文学賞を受賞した書籍を置くことで利用者の拡充を図ると共に、各公民館で実施される教室やサークルなどで利用できる図書を置くなど、地域に根付いた図書館分室の運営を実施しています。          また、借りた本をどの公民館でも返却できるようサービスの拡大を図り、利用者の利便性の向上に努めています。</p> <p><b>【成果と課題】</b>          ◎分室の利用については、登録者は全体で 422 名となり、昨年度より 0.9 % の増加がみられました。また、「昔話の絵本」や「文学賞受賞作品」を置いてほしいなどの要望もあり、利用の定着もみられました。更に全公民館にて返却本の受付を実施したことから、返却日を気にせず気軽に貸出を受けられるとの声もあり、遠隔地域の住民に大変好評です。          ◆今後図書館分室については、地域の特性を生かした運営を図ると共に、読み聞かせ行事等の開催や本館と図書館分室の本の相互取り次ぎなど図書館分室の機能強化を図り、利用の拡大に努める必要があります。</p>

事業等名	図書資料の充実
概要	中高生向け図書や郷土資料をはじめとした、各分野の図書資料の充実を図ります。
実施状況・ 成果と課題	<p><b>【実施状況】</b>  中高生の読書力と読書の質の向上を目指し、市内3中学校への朝読書用図書配本事業を実施しています。市立図書館が推薦する図書や教科書に紹介されている図書を購入し、各クラスに40冊ずつの本を学期ごとに配本し、充実に努めています。</p> <p>また、郷土資料については入手不可能な資料の複写製本や分類の見直しをする、さらに、近隣市町村で刊行される資料の情報を入手し、購入を図るなど、資料の充実や整備に努めています。</p> <p><b>【成果と課題】</b>  ◎配本図書の計画的な購入を図るとともに、館内の中高生向け図書の充実に努めた結果、約4,200冊から約5,000冊と大幅に蔵書が増え利用されるようになりました。また、郷土資料については、市町村ごとの分類見直しや見やすい書架の工夫に努めた結果、利用の効率化が図れました。</p> <p>◆今後更に中学校との連携を密にし、中学生への朝読書用図書配本事業の充実に努めるとともに、館内の学習資料の充実や快適な環境整備に努め、利用の定着を図っていきます。また、郷土資料については収集整備を進め、地域に根ざした図書館運営を目指していきます。</p>

事業等名	地域文化クラブ活動の促進
概要	市民が主体的に様々な地域文化クラブを結成し、充実したクラブライフを実現できるように、支援の充実を図ります。
実施状況・ 成果と課題	<p><b>【実施状況】</b>  各文化団体の活動の成果を発表する機会として、毎年秋に鴨川市文化祭と市民音楽祭を開催しています。</p> <p><b>【成果と課題】</b>  ◎文化協会の書道部門では、文化団体の書道作品だけでなく、市内小学校及び市内高校生の作品も展示、また、写真や短歌、絵画部門でも、市内の高校生の作品を展示しており、作品数が増えています。子どもたちの作品を展示することで、家族連れや高校生の見学者が定着しました。</p> <p>◎市民が芸術文化に触れる機会を提供するために、市民有志との協力により、芸術鑑賞ツアーを2回開催しました。</p> <p>◆文化協会は、会員の高齢化により、会員数が減少しているため、各部門で個々の活動を広報に掲載してPRし、会員加入の呼びかけや積極的な周知が必要です。</p> <p>◆市民音楽祭は、年度により入場者数に増減がありますので、来場者に楽しんでもらえるよう、新しい試みをしていく必要があります。</p>

## ○歴史・文化の保存と活用

事業等名	歴史・文化の発掘と保存・展示
概要	未だに明らかにされていない地域の歴史や文化の調査・保存に努めるとともに、郷土資料館や文化財センターでの展示、市史の編さんに努めます。
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>市内にはまだまだ明らかにされていない歴史や文化が残っている状況の中で、寺社の立入調査、古文書の解読などを所有者や地元住民の理解と協力を得ながら実施しています。その成果を「伊八」や「嶺岡牧」などの観光・文化資源、企画展・ミニ収蔵展などの展示、地域ごとの歴史を記したあゆみの発刊事業に活用するなど、より多くの市民に鴨川市域の歴史や文化の重要性を理解してもらい、さらなる調査・保存に向けての理解や情報提供などに努めています。</p> <p><b>【成果と課題】</b></p> <p>◎企画展として「名工の系譜（1720～1775）」展を開催し、伊八に連なる彫工たちの作品を展示し、これまでほとんど紹介されていなかった伊八以前の彫物の状況に関する理解を促しました。特に、伊八の師匠筋にあたる江戸の嶋村家については、一般に認知度が高くありませんでしたが、解説講座を2回開催するなど、その周知に努めた結果、この展覧会を機会に、市内外での認知度と関心が確実に高まりました。また、地域固有の歴史を掘り起こすための企画展として、「房総の石器」展を開催し、嶺岡山系で産する蛇紋岩を中心に、房総半島で出土した石器類を展示し、県内各地の考古資料を紹介しました。</p> <p>◎郷土資料館や市史編さん委員会が管理・収蔵する資料を有効に活用する意味も含めて、「桃の節句展」などのミニ収蔵展の他、「鴨川と戦争～戦後70年～」を開催するなど、市内で埋もれていた歴史の再発見を進め、地域の文化・行事の紹介にも努めています。</p> <p>◎本市所蔵の貴重な資料を市民に紹介するために、市民ギャラリーを会場に「長谷川昂素描展」を開催しました。</p> <p>◎あゆみシリーズの『吉尾のあゆみ』を発刊し、『江見のあゆみ』発刊のための製作を進めました。また、市内だけではなく市外からも多くの情報と貴重な史料の提供があり、資料館等の調査・保存活動の浸透と、歴史や文化に対する意識の向上が見られます。</p> <p>◆市内には、埋もれている歴史資料がまだまだあると考えられ、近年、市民からの情報提供や、調査依頼の件数が増加しつつあります。地域の関係者や所有者との信頼関係を築くことを念頭において調査を進めることが課題となっています。さらにその調査結果をどのような形で市民に還元していくかが重要な課題となります。</p>

事業等名	歴史・文化の学習と活用
概要	<p>伝統文化や文化遺産などの学習・体験機会の充実を図るとともに、郷土を愛する心の醸成や市民文化の向上のため、今後のまちづくりや観光・交流などに積極的な活用を図ります。</p>
実施状況・成果と課題	<p><b>【実施状況】</b></p> <p>郷土資料館、市民ギャラリーでは、様々な体験講座を実施し、また、公民館、学校などでは職員が講師となって、歴史・文化の普及に努めています。さらには、観光・商工関連団体との連絡を密にし、町づくりや観光における歴史・文化の情報提供を行っています。</p> <p><b>【成果と課題】</b></p> <p>◎一般社団法人波の伊八鴨川まちづくり塾と協力しながら、文化遺産を活かした地域活性化の事業を実施しました。今年度は波の伊八鴨川まちづくり塾主催により、鴨川市文化財センター学習室を会場に、3回連続で伊八講座を実施し、郷土の歴史文化に関する市民の理解を促しました。</p> <p>◎小学校、公民館などへ講師を20回以上派遣し、延べ800人以上の方が講義を受けています。</p> <p>◆今後はさらに、幅広い内容に関する要望が寄せられる可能性もあるので、そのような要望に応えるために、職員の知識を深め、経験を広げることが求められます。また、豊富な人材の活用と育成にも努めることが必要となります。</p>